

2015年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社
代表取締役社長 渡邊 健二

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 11
III. 経営計画の進捗状況	P. 12
IV. 2015年3月期通期の業績予想	P. 13-

2014年10月31日

I. 経営状況



A. 2015年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2015/3期 上半期実績 ①	2014/3期 上半期実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	上半期予想 (5月8日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=⑥÷⑤ ×100
売上高	9,192	8,357	834	10.0	9,000	192	102.1
営業利益	202	174	27	15.7	200	2	101.0
経常利益	250	223	26	11.7	240	10	104.2
当期 純利益	160	74	86	115.7	160	0	100.4

（億円未満切捨て）

2) 連結経営指標

第2四半期累計

（前年同期実績）

・売上高営業利益率	2.2%	(2.1%)
・売上高経常利益率	2.7%	(2.7%)
・ROE	6.4%	(2.9%)
・ROA	2.3%	(1.2%)

◇事業環境に関する認識と確認（経済環境）

消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や天候不順などの影響により、個人消費や企業生産の一部に弱さが見られたものの、政府の経済施策による円安・株高を背景に、景気は緩やかな回復基調で推移。

◇事業環境に関する認識と確認（物流業界の状況）

物流業界においては、このような経済情勢のなか、国内貨物は、消費関連貨物の減少に加え、建設関連貨物も落ち込んだことから、総じて低調に推移。一方、国際貨物については、輸入が伸び悩んだものの、世界経済の緩やかな回復を受け、輸出は堅調な伸びを示し、全体として底堅く推移。

I. 経営状況



B. 財政状態

(単位：億円)

	2015/3期上半期	2014/3期	増減
総資産	13,745	13,774	△29
自己資本	5,044	4,958	85

C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2015/3期上半期 実績 ①	2014/3期上半期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	211	164	47
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△185	△214	29
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	26	△50	76
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	△93	255	△348
現金及び現金同等物に係る換算差額 (D)	△16	33	△49
現金及び現金同等物の増減額 (A+B+C+D)	△83	237	△321
現金及び現金同等物の期首残高	1,259	1,136	122
現金及び現金同等物の期末残高	1,177	1,374	△197

Copyright © 2014 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2015年3月期第2四半期決算説明会資料

2

◇財政状態

総資産は対前年度末29億円、0.2%減。

◇キャッシュ・フローの状況

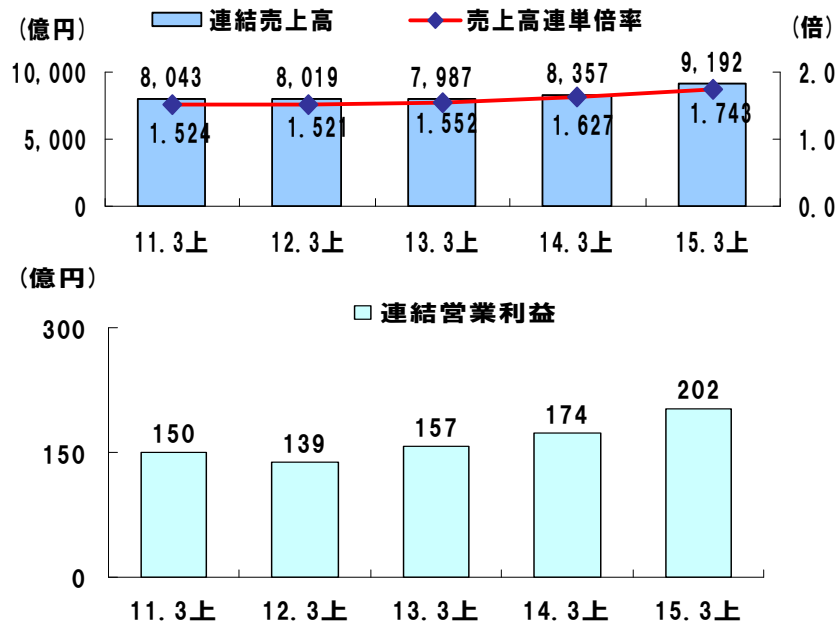
現金及び現金同等物の期末残高が、対前年度末81億円減少し、1,177億円。
四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、資金の範囲を変更。

※詳細につきましては、平成27年3月期 第2四半期決算短信の
P4(会計方針の変更)「四半期連結キャッシュ・フロー計算書における
資金の範囲の変更」をご参照ください。

I. 経営状況



D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2014 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2015年3月期第2四半期決算説明会資料

3

◇売上高の推移

対前年834億円、10.0%増加。

夏場に低迷していた荷動きが9月に入って活発化し、「複合事業」セグメントが盛り返したこと、「重量品建設」セグメントや海外セグメントが好調を維持したこと、新規連結効果により「その他」セグメントが大きく伸長したことなどが、売上高を押し上げた要因。

◇営業利益の推移

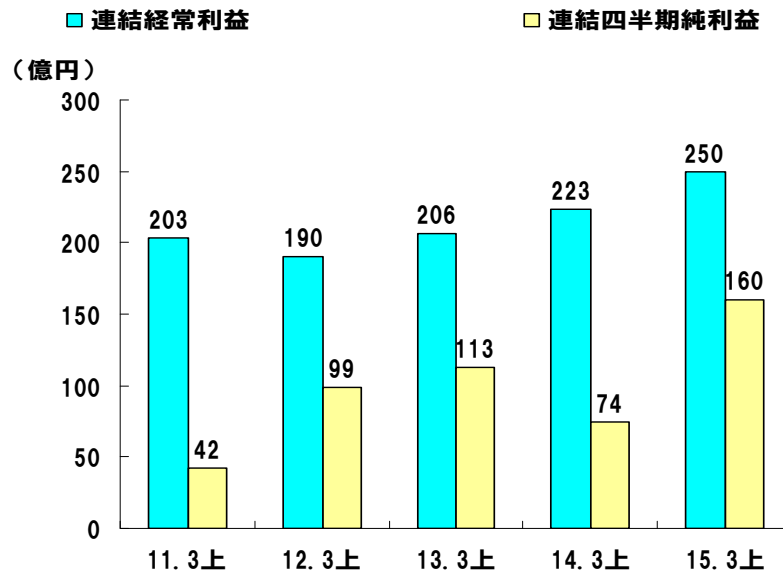
対前年27億円、15.7%増加。

前年対比で、「複合事業」セグメントと海外セグメントが改善したこと、「販売」セグメントにおいて、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業の取扱いが増加したことが大きく寄与。

I. 経営状況



E. 直近5年間の経常利益と四半期純利益の推移



◇経常利益の推移

対前年26億円、11.7%増加。

◇四半期純利益の推移

対前年86億円、115.7%増加。

「米国集団訴訟関連引当金」の発生に伴う特別損失を第1四半期に33億円計上したが、当・第2四半期において、投資有価証券の売却による特別利益を51億円計上。

前年に「転進支援措置」の実施に伴い、特別加算退職金を特別損失として97億円計上していたため、大幅な増益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	3,655	3,532	122	3.5	3,639	100.5	16
	セグメント利益	64	52	12	23.5	71	90.0	Δ7
2Q単四半期	売上高	1,846	1,784	62	3.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	38	29	9	33.5	2.1 (1.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 飲料及び電機関連の荷動きが鈍化、自動車関連も消費増税前駆け込み需要の反動減が影響 北海道産農産品の好調な出荷が鉄道取扱の増に寄与 期末に、輸送需要の高まりから、トラック輸送やロジスティクス業務を中心とした倉庫・付帯事業が増加 						

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(5/8発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	276	273	3	1.1	277	99.8	Δ0
	セグメント利益	3	4	Δ0	Δ20.3	5	77.5	Δ1
2Q単四半期	売上高	138	136	1	1.2	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	0	1	Δ1	Δ63.8	0.4 (1.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 新規の設定便業務が順調に推移 社有戦力のみで業務を遂行していることから、人件費上昇により、減益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇複合事業・・・増収、増益

7、8月は天候不順に見舞われたことから、鉄道取扱やトラック輸送において、飲料及びエアコンなどの電機関連の荷動きが鈍化したほか、自動車関連などにおいても消費増税前の駆け込み需要の反動の影響が見られた。

しかしながら、9月に入り、北海道産農産品の好調な出荷が寄与した鉄道取扱に加えて、期末における輸送需要の高まりから、トラック輸送やロジスティクス業務を中心とした倉庫・付帯事業他の取扱いが大幅に増加。

◇警備輸送・・・増収、減益

第1四半期から始まった新規の設定便業務が順調に推移したものの、社有戦力のみで業務を遂行していることから、当・第2四半期においては、人件費上昇の影響を受けた。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	246	181	64	35.7	207	118.9	39
	セグメント利益	11	10	1	10.2	11	100.4	0
2Q単四半期	売上高	118	87	30	34.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	5	0	5.4	4.6(5.9)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・海外プラント工事が順調に売上げを伸長 ・国内では、シャット・ダウン・メンテナンス業務、風力発電関連の取扱いが堅調に推移 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇重量品建設・・・増収、増益

当・第2四半期も、マレーシアにおける海外プラント工事が順調に売上げを伸ばしたほか、国内においては、シャット・ダウン・メンテナンス業務、風力発電関連の取扱いが堅調に推移。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	918	881	37	4.3	916	100.3	2
	セグメント利益	25	24	1	5.5	27	93.3	△1
2Q単四半期	売上高	475	445	30	6.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	19	13	5	41.7	4.0(3.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本発輸出貨物の取扱重量が、前年比二桁のプラスで推移し、輸出が増収に転じる ・輸入貨物、国内貨物の取扱いも堅調に推移 						

5) 海運

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	596	672	△75	△11.3	611	97.7	△14
	セグメント利益	29	33	△4	△12.4	30	95.7	△1
2Q単四半期	売上高	303	333	△29	△8.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	13	12	1	14.8	4.6(3.6)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・設備輸送関連の輸出が下支えをする状況が継続する一方で、太陽光パネル関連の輸入が鈍化 ・商戦期における海外引越の取扱いが、輸出入とも好調に推移し、増益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇航空・・・増収、増益

当・第2四半期は、日本発輸出貨物の取扱重量が、前年比二桁のプラスで推移し、輸出が増収に転じた。品目別では、米州・欧州向けに自動車関連、アジア向けには電子・電機関連の荷動きが活況。輸入貨物、国内貨物の取扱いも堅調に推移。

◇海運・・・減収、増益

輸出は、当・第2四半期も設備輸送関連が下支えをする状況が継続。輸入は、好調だった太陽光パネル関連の荷動きが鈍化。内航海運の取扱いは、新造RORO船投入の効果が一巡し、前年並。一方で、商戦期における海外引越の取扱いが、輸出入とも好調に推移し、利益を押し上げる形となった。5月に実施した組織改正も影響。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	374	335	38	11.6	368	101.7	6
	セグメント利益	17	11	5	49.5	12	134.9	4
2Q単四半期	売上高	191	176	14	8.3	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	8	8	△0	△9.2	4.2 (5.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・メキシコでの自動車関連の海運・輸入フォワーディングの取扱いが、堅調に推移 ・米国での自動車関連の倉庫配送業務やトラック輸送、航空・輸出フォワーディングの取扱いが好調 ・米国からメキシコへの航空・転送業務の減少により、減益 						

7) 欧州

(単位：億円、%)

		実績	前年同期対比		業績予想(5/8発表)対比			
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	395	341	54	15.9	397	99.7	△1
	セグメント利益	10	3	6	171.5	6	170.5	4
2Q単四半期	売上高	198	177	20	11.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	2	2	104.7	2.8 (1.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫配送業務や域内のトラック輸送が苦戦 ・航空・輸出フォワーディングの取扱いが、ドイツ、フランス、オランダを中心に、前年比プラスで推移 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇米州・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、減益。

自動車関連のお客様が、メキシコにおける生産能力を引き続き、増強させており、メキシコでの海運・輸入フォワーディングの取扱いが堅調。

米国においては、自動車関連の倉庫配送業務やトラック輸送に加え、航空・輸出フォワーディングの取扱いも好調を維持。

一方で、米国からメキシコへの航空・転送業務の減少が、減益の大きな要因。

◇欧州・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースの実績でも、増収、増益。

お客様の合理化の影響を受けて、倉庫配送業務や域内のトラック輸送については、苦戦をする状況が続いているものの、長引く景気低迷の影響を受けていた航空・輸出フォワーディングの取扱いが、ドイツ、フランス、オランダを中心に、前年比プラスで推移。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	480	420	60	14.5	471	102.1	9
	セグメント利益	7	6	0	4.4	8	89.7	△0
2Q単四半期	売上高	250	223	26	11.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	4	△1	△20.5	1.6(2.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 中国では、自動車関連のトラック輸送の取扱いが、前年対比で大幅プラス 香港の航空・輸出フォワーディングの取扱い減少、中国における現地人件費の上昇等により、減益 						

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	291	243	48	19.8	285	102.4	6
	セグメント利益	6	5	1	22.4	6	101.9	0
2Q単四半期	売上高	152	128	24	18.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	3	3	0	6.8	2.5(2.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> 地域全体において、倉庫配送業務及び航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加 シンガポール、タイでは、重機建設事業も好調に推移する等、売上の増に寄与 						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇「東アジア」・・・増収、減益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、減益。

中国では自動車関連のお客様が増産を続けており、トラック輸送の取扱いが、前年対比で大幅プラス。しかしながら、香港の航空・輸出フォワーディングの取扱い減少、中国における現地人件費の上昇などの影響により、減益。

◇南アジア・オセアニア・・・増収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースにおいても、増収、増益。

地域全体において、倉庫配送業務及び航空・輸出フォワーディングの取扱いが増加してきており、シンガポール、タイでは、重機建設事業も好調に推移するなど、大幅に売上げを伸ばす。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	2,084	1,903	180	9.5	2,031	102.6	53
	セグメント利益	27	20	7	34.4	23	117.6	4
2Q単四半期	売上高	1,062	989	72	7.4	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	12	10	1	15.8	1.1 (1.0)		
	概況	・石油類の販売単価が上昇したことにより、増収 ・輸出梱包等のロジスティクス・サポート事業の取扱いが堅調に推移し、増益						

11) その他

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(5/8発表)対比		
		15/3期	14/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
上半期	売上高	538	201	336	166.6	510	105.5	28
	セグメント利益	7	6	0	15.0	6	112.7	0
2Q単四半期	売上高	271	110	161	146.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	△0	△1.4	1.8 (4.5)		
	概況	・日通・パナソニック ロジスティクス社が、前年度第4四半期から連結子会社となり、増収						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容

◇販売・・・増収、増益

収入面では、石油類の販売単価が上昇したこと、利益面では、第1四半期に引き続き、輸出梱包業務などのロジスティクス・サポート事業の取扱いが堅調に推移したことが、主要因。

◇その他・・・増収、減益

日通・パナソニック ロジスティクス社が、前年度第4四半期から連結子会社となり、収入の増加に寄与。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結（第2四半期累計）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 8.2億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 121.10円/ℓ (112.72円) ガソリン : 152.98円/ℓ (145.92円) 船舶重油 : 73.22円/ℓ (69.37円)
為替(円安)による影響	売上高 98.5億円 営業利益 2.0億円	上半期平均為替レート ^(※) (前年同期) USD : 102.47円 (95.59円) EUR : 140.43円 (125.50円) HKD : 13.22円 (12.32円) RMB : 16.65円 (15.47円)

(※) 上半期平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

III. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2015年3月期上半期実績 1.8% (2014年3月期実績 2.1%) (2014年3月期上半期実績 1.5%)
	【10月1日付組織改正】 ・航空事業部管内大阪航空支店 海運事業部管内大阪国際輸送支店 ・関西ブロックに、グローバルロジスティクス支店を新設	→ 関西ブロック地域総括に移管
グローバルロジスティクス事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2015年3月期上半期実績 33.5% (2014年3月期実績 32.5%) (2014年3月期上半期実績 32.4%)

◇国内複合事業営業利益率3%達成に向けて

(1) コスト削減の取組み

物流業務に適さない施設については、不動産事業など他の用途での活用や売却を検討。オペレーションの現場では、作業計画の見直しによる社有戦力の有効活用、限界利益管理による外注費の削減、ITの活用による業務の効率化、事務管理コストの圧縮を図るなど、徹底してムダを排除。

(2) 営業力の強化

三大都市圏での営業拡大のため、関西エリアにおいて、組織改正を実施。第一の目的は、ワンストップ営業の一層の強化。組織面から陸・海・空を一本化し、ワンストップ体制を強力に推進。第二の目的は、アカウント営業の強化。お客様の物流の全体像を把握した上で、営業からオペレーションまで一貫して対応することができる体制の構築。第三の目的は、ヒト・モノ・カネといった経営資源の積極的活用。今後さらに、他の大都市圏においても、同様の取組みを進めていく予定。

(3) 料金改定

9月1日に、24年ぶりにトラック貸切届出運賃を改定。

11月1日から積合せ届出運賃も3年ぶりに改定。

◇国際関連事業売上高比率40%達成に向けて

日本国内における国際関連事業の拡大を推進。具体的には、海外から日本への輸入貨物の獲得を目指す。中国・韓国へのゲートウェイである九州エリアにおいて、港湾地域と内陸の拠点を一元化する今年5月の組織改正とあわせて、実効ある取組みを推進。海外会社の売上高は、すでに国際関連事業売上高の半分を超えており、今後も成長を加速させる。特にアジアをターゲットに定め、これまで以上に当社グループが未だ進出をしていないエリア及びレーンの開拓や新商品の開発、非日系顧客の獲得に注力。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



A. 連結業績予想 (変更なし)

(単位：億円)

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	9,192	9,507	18,700	9,167
営業利益	202	247	450	234
経常利益	250	279	530	277
当期純利益	160	139	300	189

◇5月8日発表の連結業績予想を据え置き

各セグメントの業績見通しも変更せず。

10月1日付で組織改正を行ったが、報告セグメントについては、引き続き従来の区分に則った形で開示。

◇業績予想策定の前提となる経営環境、物流業界の状況

海外経済は、世界的に地域紛争などが潜在化するなか、ユーロ圏や中国において、景気の減速感が強まっているものの、堅調な米国経済が景気回復を牽引するものと期待。

国内経済では、企業収益の改善による設備投資の増加が見込まれている一方、円安の影響や消費増税の負担による物価の上昇から、個人消費の回復ペースは鈍く、景気は先行き不透明な状況で推移するものと予測。

荷動きについても、国際貨物が、世界経済の回復を背景に、輸出を中心として堅調に推移するものの、国内貨物は、消費マインドの冷え込みから、引き続き、消費関連貨物などが伸び悩むものと見る。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

1) 複合事業

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	3,655	3,782	7,438	3,684
セグメント利益	64	114	179	99
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・三大都市圏での営業力強化、地方圏での拠点の統廃合を含む、地域経済・マーケットの特性に合わせた営業活動を推進 ・料金改定やオペレーション支援システムの活用等により、採算性の向上に取り組む 			

2) 警備輸送

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	276	279	556	273
セグメント利益	3	8	12	6
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・売上げは順調に推移すると見込む ・セキュリティ向上のための車両改修により、一時費用の増を見込む 			

◇複合事業

三大都市圏での営業力強化に加え、地方圏においても、拠点の統廃合を含め、地域経済・マーケットの特性に合わせた営業活動を推進。

既存の業務についても、引き続き、お客様との料金改定やオペレーション支援システムの活用などにより、採算性の向上に取り組み、複合事業の営業利益率については、通期目標である2.4%の達成を目論む。

◇警備輸送

売上げは順調に推移すると見ているが、下半期に車両のセキュリティ向上のための改修を予定しているため、一時費用の増を見込む。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

3) 重量品建設

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	246	165	412	185
セグメント利益	11	9	21	8
概況	・通期で見た場合、売上げ、利益とも順調に推移すると見込む			

◇重量品建設

通期で見た場合、売上げ、利益とも順調に推移する見込み。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

4) 航空

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	918	943	1,862	936
セグメント利益	25	34	60	31
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・日本発輸出貨物の取扱重量が、回復基調で推移する見込み ・BILT-2(ビルト・ツー)を中心に、ロジスティクス業務の取扱拡大とオペレーション効率の改善を図る 			

5) 海運

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	596	603	1,200	644
セグメント利益	29	15	45	17
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・設備輸送が継続して、輸出取扱いを一定程度、下支えする見込み ・工場完成後の部材輸送の獲得や、既存中堅顧客の深耕及び新規顧客を開拓 			

◇航空

日本発輸出貨物の取扱重量が回復基調で推移するものと見る。
本年1月に稼動した、千葉県市川市の新施設、BILT-2を中心に、
ロジスティクス業務の取扱い拡大とオペレーション効率の改善を図る。

◇海運

今期もお客様企業の海外進出に伴う、設備輸送が継続し、輸出取扱いを
一定程度、下支えすると見る。今後は、工場完成後の部材輸送の
獲得や既存中堅顧客の深耕及び新規顧客の開拓、産業別ではアパレルや
食品・農産物など、ターゲットを定めた営業拡大に取り組む。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (変更なし)

6) 米州

(単位: 億円)

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	374	368	743	355
セグメント利益	17	13	30	16
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブラジルにおいて、今年1月に開設した自社運営倉庫で取扱いが増加 ・ メキシコ発ブラジル向け海運フォワーディングの取扱獲得にも注力 ・ 米国では、航空・転送業務の減少が見込まれるが、米国内での倉庫配送業務は、好調を維持する見込み 			

7) 欧州

(単位: 億円)

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	395	438	834	386
セグメント利益	10	0	10	3
概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空・輸出フォワーディングの取扱いが、ドイツ、オランダ、スペインを中心に増加傾向が継続 ・ 苦戦をしている倉庫配送業務の改善等も見込む 			

◇米州

メキシコ同様、自動車関連のお客様の多いブラジルにおいて、本年1月に開設した自社運営倉庫の取扱いが増加しているほか、メキシコ発ブラジル向け海運フォワーディングの取扱獲得にも注力。

一方、米国においては、航空・転送業務の減少が見込まれているものの、米国内での倉庫配送業務は、好調を維持するものと見る。

◇欧州

欧州経済が回復に向かうなか、足元では航空・輸出フォワーディングの取扱いが、ドイツ、オランダ、スペインを中心に増加傾向。

また、苦戦をしている倉庫配送業務の改善なども見込む。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況 (変更なし)

8) 東アジア

(単位：億円)

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	480	522	1,003	501
セグメント利益	7	7	14	5
概況	<ul style="list-style-type: none"> 中国での自動車、電子・電機関連の航空・海運輸出入フォワーディングの需要が回復する見込み 自動車関連のトラック輸送の増加等、中国国内の物流需要への対応を、今後も強化 			

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円)

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	291	288	580	270
セグメント利益	6	8	15	8
概況	<ul style="list-style-type: none"> タイ、フィリピンでの航空・輸出フォワーディングの取扱いが好調を維持 マレーシア、インドネシアでの倉庫配送業務も堅調に推移 			

◇東アジア

中国での航空・海運の輸出入フォワーディングの取扱いが、足元では前年比プラスで推移しており、自動車、電子・電機関連の需要回復を見込む。また、自動車関連のお客様の増産に伴うトラック輸送の増加など、中国国内の物流需要への対応を、今後も強化。

◇南アジア・オセアニア

足元では、タイ、フィリピンでの航空・輸出フォワーディングの取扱いが好調を維持しているほか、マレーシア、インドネシアでの倉庫配送業務も堅調に推移。今後も、お客様の動向を注視しながら、拠点の陣容強化や新拠点の開設を進めるとともに、効率化を推進。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

10) 販売

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	2,084	2,140	4,225	2,224
セグメント利益	27	27	54	27
概況	・ロジスティクス・サポート事業が堅調に推移する見込み			

11) その他

（単位：億円）

	2015/3期			2014/3期 下半期実績
	上半期	下半期	通期予想	
売上高	538	855	1,394	412
セグメント利益	7	16	23	13
概況	・日通NECロジスティクス社が、第3四半期から連結子会社となる予定であることから、大幅な増収を見込む			

◇販売

引き続き、ロジスティクス・サポート事業が堅調に推移するものと見る。

◇その他

日通・パナソニック ロジスティクス社に加え、日通NECロジスティクス社も、第3四半期から連結子会社となる見込みであることから、大幅な増収を見込む。

IV. 2015年3月期通期の業績予想



C. 外部要因の前提

	下半期 連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 2.5$ 億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 118.55円/ℓ (114.92円) ガソリン : 153.37円/ℓ (147.21円) 船舶重油 : 70.63円/ℓ (71.24円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +54.5 億円 営業利益 +0.4 億円	(前期年間平均 ^(※)) USD : 102.50円 (97.65円) EUR : 141.00円 (129.68円) HKD : 13.20円 (12.59円) RMB : 16.80円 (15.91円)

(※) 年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨ベースの四半期実績に適用している。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。